

山陽小野田市では、平成18年度から市内全小学校において、家庭と学校のそれぞれの役割を明確にしながら、子どもの生きる力を育むことを目的として、「生活改善・学力向上プロジェクト」を始めました。

家庭ではテレビ・ゲーム・インターネットなどの制限や「早寝・早起き・朝ごはん」などで生活習慣を見直すことによって心と体の土台づくりをし、学校ではモジュール授業（※注）を導入して、学習のための脳の土台づくりをするというものです。

導入して約9か月、教育現場ではその成果が着実に現われてきています。また、市内全小学校への一斉導入が全国初ということもあって、この取組みは各方面より注目されています。

今回、広報「さんようおのだ」の2007年新春特集として、このプロジェクトの総合監修を行う^{かげやま}陰山英男先生（立命館大学教授）と教育委員会の^{ただし}江澤正思教育長との対談の様をお伝えします。昨年の総括、今後の取組みなど、1時間以上に及んだ対談は山陽小野田市だけにとどまらず、深刻化するいじめ問題への対処方法、陰山先生がメンバーとして選ばれた首相直属機関である教育再生会議のことまで多岐にわたりましたが、先生の教育にかける熱い情熱をできる限りそのままお伝えしたいと考え、紙面の制約を設けずに、編集を行いました。ぜひ、小・中学生がいらっしゃる保護者のみなさんが目を通され、今、学校で行われていることを知っていただくとともに、ご家庭での取組みの必要性を理解してくださることを期待します。

（記事に関するご意見、ご感想は

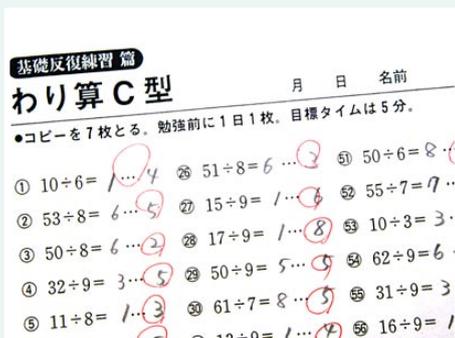
教育政策室 ☎ 82-1208 fax84-8691 E-mail : k-seisaku@city.sanyo-onoda.lg.jp までお寄せください。）



一口メモ

（※注）モジュール授業

15分を一単位として、「読み・書き・計算」の基礎基本を徹底反復することで、脳を鍛える授業方法。具体的には、音読や漢字の書き取り、計算などを、「スピード・テンポ・タイミング」をもって短時間に集中して行うもので、脳（前頭前野）が非常に活性化するとされている。こうした鍛練により、脳機能（集中・意欲・行動の制御など）が高まり、子ども本来の元気を伸ばそうとするものである。成果については、他の子どもとの比較ではなく、昨日の自分よりどうかといった自分自身の成長に着目し、自信とやる気をもたせる学習方法。



▲ 6年生用の「百ます計算」の一例

